

京都府北部 30 k m圏内での住民アンケート結果に基づく要望書

小浜市長 杉本和範 様

立春を迎えましたが、寒さの厳しい今日この頃です。日頃は、原発問題においても小浜市民の皆さまの安全のためにご尽力いただきありがとうございます。

今回は、関西の市民団体から要望書をお送りいたします。

関西電力の使用済燃料の乾式貯蔵は、貯蔵期間も搬出先も決まっていません。そのため立地の町は半永久的に核のゴミ捨て場になる危険があります。また、老朽原発の運転継続によって事故の危険が高まり、ひとたび事故が起これば、小浜市はもとより高浜原発から30 k m圏内にある京都府の市町も同様に「被害地元」となってしまいます。

それにも関わらず、乾式貯蔵などの重要な問題は、福井県と立地自治体の判断で進められ、小浜市並びに京都府、滋賀県の周辺住民、周辺自治体の声は蚊帳の外です。

そのため私たちは、住民の皆さんの思いを知り、その声を自治体に伝えるために、昨年6月から11月に、高浜原発30 k m圏内の京都府北部7市町※で住民アンケートを実施してきました（※舞鶴市、綾部市、京丹波町、福知山市、南丹市、宮津市、伊根町）。一軒一軒訪ねて、アンケートをお願いし、対話を通じて避難問題や乾式貯蔵、原発についての思いや疑問等を聴いてきました。

舞鶴市PAZの20%、6市町UPZの5%の世帯から、857名のアンケートが集まりました。アンケート結果の特徴は以下です（詳細は別紙のアンケート結果を参照してください）。

- 「乾式貯蔵の計画は知らない」「説明すべき」が約8割
- 乾式貯蔵に「反対」と「先に搬出先・貯蔵期間を決めるべき」の合計が約半数。関電の計画に批判的な声です
- 老朽原発の運転継続に半数以上が「反対」
- 「これ以上核のゴミを子や孫に残したくない」との声が多く聞かれました

このように、乾式貯蔵の計画はほとんど知らされておらず、多くの皆さんが説明を求めています。この結果を基に、京都府や綾部市等に住民説明会を求める申入れも行っています。京都府議会議員や市議会議員からは、住民説明会の開催、事前了解の権限を求めたいという声も聞こえています。

今回は、このような関西の声も汲んでいただき、同じUPZの小浜市からも、福井県内並びに関西の周辺住民への説明を福井県に求めていただくよう要望いたします。

福島原発事故から間もなく14年になろうとしていますが、避難者の苦悩は続いています。

いつの世も、民の声に耳を貸さない治世は長くは続きません。被害だけが住民に負わされることがあってはなりません。

要 望 事 項

関西電力の使用済燃料の乾式貯蔵について

福井県と立地自治体の判断で決めるのではなく、周辺住民への説明を求めてください

2025年2月6日 避難計画を案ずる関西連絡会

（連絡先団体：グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい宮津の会/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/ 脱原発はりまアクション/ 原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会）

この件の連絡先：美浜の会 大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階 TEL：06-6367-6580